

解答 ・ 解説

第一問 ③ 机の下に隠れる

震度6－7クラスでは、全く何もできません、中越地震のときどうでしたか、下手に動いてケガをしないように、机の下などに身を隠して、揺れの収まるまで待ちましょう。家族を置いて自分だけ飛び出すのはやめましょう、家族がみんなが非難をします

第二問 ⑨ 笛

最悪のケース、自分が生き埋めになり脱出できない場合、所在を知らせるため最も重要になります。阪神淡路大震災では、35、000人の方が生き埋めとなり脱出できない状況に陥ったといわれています。

第三問 ② ガソリンスタンド

ガソリンスタンドは以外にも、火にも地震にも強い施設です、阪神淡路大震災ではスタンドで焼け止まりになったと言います。

第四問 ① 買い物かごをかぶってうずくまる

スーパー等の買い物かごは以外にも強度がある、とにかく頭を守ることが大切です。

第五問 ① 毛布で、体全体をくるんで運ぶ

脇の下だと力の及ぶ所が狭いため、ヒモもジャンバーも強い力がないと運べない

第六問 ② そのままにして救助隊の到着を待つ

長時間、足や腕などが重い物の下敷きになっていると、体内に毒素が発生する、急に取り除くと、毒素が血液をめぐる心臓停止などを引き起こすことがある、これをクラッシュシンドロームといわれています。

第七問 ③ 頭からかぶり、火災時に煙を吸わないようにする

空気を入れて頭からかぶると2・3分呼吸できます、煙を2呼吸程吸うと意識を失い倒れてしまいます。

第八問 ③ 高齢者・子供を真ん中に縦に列になってゆっくり歩く

道路の端を歩くのは、側溝、マンホールの蓋が外れているなど危険、先頭の人が、安全を長い棒などで確認しながら着実に前に進む。元気な人が高齢者・子供を背負ったり、前後の人をロープで結んで避難する。

第九問 ③ すぐに高台や高いビルに避難する

津波は引き波なしでおこることも、地震発生から2－3分で襲ってくることもあります、揺れを感じたら、すぐに高台や高いビルに避難しましょう。

第十問 ① 瓦屋根であり屋根が重いから地震に強い

瓦屋根で屋根が重い住宅は、台風や雪に強いが重心が高いため地震に弱い。昭和56年より建築基準法が改正され、新耐震基準が制定された、これにより地震に対する強度が向上した。

第十一問 ③ 1923年（大正12年）9月1日の関東大震災教訓を踏まえて

第十二問 ① 活火山です、過去何回も噴火しています。

第十三問 ③ 計算式で約30倍といいます。

第十四問 ① 日本は世界でも有数の地震国、津波が英語になるほど多い国。

第十五問 ③ 気象庁 震度は10段階0から7まで、5.6に強弱があります。

第十六問 ③ 昭和36年9月に災害対策基本法が制定され今日に至っています。

第十七問 ② NTT伝言ダイヤル番号は171番 災害時メッセージにしたがって利用しましょう。

第十八問 ② 世界の火山数は1548箇所、その内日本は108箇所7%を占めています。

第十九問 ② 1994年から2003年まで、マグニチュード6以上は世界で960回 日本は220回

第二十問 ③ 十万回 極微小地震 震度1－2クラス マグニチュード3.5以上は2,000回です。

第21問 ① エコノミークラス症候群 血栓が動脈につまり急死すると言われています